

令和元年 8 月

逗子市教育委員会定例会

令和元年 8 月 8 日

逗子市教育委員会

会 議 録

令和元年8月8日逗子市教育委員会8月定例会を逗子市役所5階第4会議室に招集した。

◎ 出席者

教 育 長	村 松 雅
教 育 長 職 務 代 理 者	塚 越 暁
教 育 委 員	村 上 朝 鼓
教 育 委 員	星 山 麻 木
教 育 委 員	若 林 順 子
教 育 部 長	山 田 隆
教 育 部 次 長	村 松 隆
教 育 総 務 課 長 事 務 取 扱	
学 校 教 育 課 長	杵 山 英 延
学 校 教 育 課 担 当 課 長	内 田 源 一 郎
教 育 部 次 長 (子 育 て 担 当)	高 橋 佳 代
子 育 て 支 援 課 長 事 務 取 扱	
子 育 て 支 援 課 担 当 課 長 (子 育 て 支 援 担 当)	中 村 妙 子
子 育 て 支 援 課 主 幹	村 上 晴 美
事 務 局	
教 育 総 務 課 係 長	須 田 純 子
教 育 総 務 課 主 事	吉 井 ま ど か

◎ 開会時刻 午後2時30分

◎ 閉会時刻 午後5時10分

◎ 会議録署名委員決定 星山委員、若林委員

○村松教育長

会議に先立ち、傍聴の皆様をお願いいたします。傍聴に際しては、入口に掲示されております注意事項をお守りくださるようお願いいたします。なお、報道関係者以外の録音、写真撮影につきましては、許可しておりませんので、御了承ください。また、教育委員会の議決により、秘密会にすべき事項と思われる案件が出されたときには、退場いただく場合がありますので、御了承ください。

○村松教育長

定足数に達しておりますので、ただいまから令和元年逗子市教育委員会 8 月定例会を開会いたします。

それでは会議に入ります。本日の会議日程はお手元に配付したとおりでございます。

会議規則により、本日の会議録署名委員は星山委員、若林委員をお願いいたします。

これより会議日程に入ります。

◎日程第 1 「教育長報告事項について」

○村松教育長

日程第 1 「教育長報告事項について」を議題といたしますが、前回の定例会から教育長会議等ございましたので、本日は御報告内容はございません。

ということで、教育長報告事項については終了をいたします。

◎日程第 2 「報告第19号逗子市立小・中学校給食運営検討委員会規程の制定について」

○村松教育長

日程第 2 「報告第19号逗子市立小・中学校給食運営検討委員会規程の制定について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○枚山学校教育課長

報告第19号逗子市立小・中学校給食運営検討委員会規程の制定について御説明いたします。

この規程は、中学校給食の提供方式や調理業務の民間委託の実施など、市立小・中学校の運営について検討するための委員会を設置し、その組織及び運営について、必要な事項を定めるため制定したものです。

規程の内容につきましては、所掌事項、組織、会議等、第 2 条から 5 条に記載のとおりで

す。また、第6条では学校給食について知識・経験を有するアドバイザーを置くことができる旨を、また第7条では委員及びアドバイザー以外の者に意見の開陳等必要な協力を求めることができる旨の規定をしています。選考委員会の庶務は学校教育課において処理することを第8条に規定しております。

本件につきましては、事務執行上、緊急を要したため、逗子市教育委員会教育長に委任する事務等に関する規則第3条第1項の規定に基づき、別紙のとおり令和元年8月1日付けで教育長の臨時代理により制定いたしましたので、同条第2項の規定に基づき報告し、承認を求めます。

以上で説明を終わります。

○村松教育長

ありがとうございました。本件について御質疑、御意見はありませんか。

よろしいですか。御質疑、御意見がないようですので、本件については承認することよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

御異議ないようですので、報告第19号については承認することに決定をいたしました。

◎日程第3「報告第20号教育委員会職員の人事について」

○村松教育長

日程第3「報告第20号教育委員会職員の人事について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○村松教育部次長

報告第20号教育委員会職員の人事について御報告申し上げます。

教育委員会職員の人事については、緊急を要したため、逗子市教育委員会教育長に委任する事務等に関する規則第5条第1項第1号の規定に基づき、別紙のとおり令和元年8月1日付けで教育長の専決により行いましたので、同条第2項の規定に基づき報告をするものでございます。

以上でございます。

○村松教育長

本件について御質疑、御意見はありませんか。

よろしいですか。では、以上で日程第3、報告第20号教育委員会職員の人事についてを終

わりにいたします。

◎日程第4「議案第8号令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」

○村松教育長

日程第4「議案第8号令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○内田学校教育課担当課長

日程第4、議案第8号令和2年度使用小学校教科用図書の採択について御説明いたします。

これは、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同施行令第14条の規定によりまして、令和2年度に逗子市立小学校で使用する教科用図書につきまして決定していただくものです。

逗子市教科用図書の採択方針につきましては、4月の定例教育委員会において決定していただき、5月7日には逗子市教科用図書採択検討委員会を設置いたしました。その後、6月7日に逗子市・三浦市・葉山町の2市1町合同調査研究委員会が設置され、検定済みの教科用図書について調査・研究が行われ、その調査・研究結果をもとに、7月22日の第2回逗子市教科用図書採択検討委員会において検討、協議が行われました。本日の採択に当たっては、7月29日付け文書で検討委員会委員長より教育委員会へ提出報告された今年度の逗子市教科用図書採択検討委員会の報告を資料の一つとして参考にしながら御審議いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

○村松教育長

本件について御質疑、御意見はありませんか。

各委員におかれましては、これまで検討委員会からの報告等を受けて調査・研究を重ね、本日の審議に臨まれているかと思しますので、審議に当たっては皆様からの御意見をいただきながら、最終的に1社を採択したいと思っております。なお、採択の方法は、挙手により賛意を表明することとし、多数をもって決定したいと思っております。

お諮りいたします。採択の方法は挙手により賛意を表明することとし、多数をもって採決を決定したいと思っておりますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」の声多数)

御異議ないようですので、そのとおり進めさせていただきます。

では、令和2年度より市立小学校で使用する教科用図書について審議いたします。審議に先立ちまして、いくつか確認させていただきます。

まず第1に、教科書の採択に当たって最も尊重すべきものは、教育基本法と学習指導要領であること。

第2に、検定を通過した教科用図書については、どれも教育基本法及び学習指導要領を反映したものと捉えて、全ての検定済み教科用図書を採択の対象とすること。

第3に、採択検討委員会の所掌事務は、逗子市教科用図書採択検討委員会の設置及び運営に関する規定に定められているとおり、教育委員会が行う教科用図書の採択に係る基本的かつ必要な事項について検討、協議し、その結果を教育委員会に報告することであること。並びに、採択検討委員会から提出された3つの資料、①2市1町合同調査研究委員会作成の教科用図書調査研究報告書、②2市1町合同調査研究委員会による調査研究結果、③教科書展示会及び各市立小学校での展示において閲覧された保護者・市民からの感想・意見、以上3点については採択の際の重要な参考資料とするものの、教育委員会における決定を左右するものではない。

第4に、採択された教科書を用いて実際に授業に当たる教員の意向は重視・尊重すること。並びに、教員は採択された教科書を用いて授業実践に創意工夫をし、児童・生徒の学力向上に資するものとする。

第5に、採択するに当たって、本市教育委員会として重視するポイントについて4つ確認をいたします。①学習につまずきやすい児童にも使いやすいもの。②学習した内容が日常生活のさまざまな場面と結びつきやすいもの。③学校行事や学校生活との関連が考慮されているもの。④本市の教育の重点方針と関連が深いものの以上4点とすること。

以上、御確認いただけますか。

では、ここまでに御意見等ありますか。

○村上委員

私も逗子市教科用図書採択検討委員会に教育委員会として参加させていただきました。今の教育長がおっしゃったことと重なりますけれども、教育委員として7月30日に全員集まり、教科ごとの自分たちで持ち帰って勉強したことを意見交換した中で出た意見としまして、先生方、この2市1町合同調査研究委員会がまとめた先生方の評価を実際に子どもたちに接する、実際に指導を直接される先生方のほうに趣を置いて教科書選定をしていこうということになり、勉強を重ねてきたことを御報告いたします。

また、アンケートの中でも、現場にいて子どもたちの状況を知っていて、その選択を大事にしてほしいと思いますという意見や、実際に使用する教師ではなく、教育委員会で決めるというのはどうしてなのかなと思いますという御意見もいただいております、ぜひ私たちも先生方の意見を大切に考え、教科書を選ぶということを知っていただきたいなというように思います。

○村松教育長

ありがとうございました。よろしいですか。それでは、特にないようですので、御確認いただけたものとして進めさせていただきます。

それでは、小学校の教科用図書の採択に入ります。まず最初に小学校「国語」についてです。それぞれの社についての内容で御意見があれば、挙手でおこたえください。いかがでしょうか。

○塚越委員

国語の4社の教科書を拝見したのですけれども、特に私は1年生、最初に国語に触れる子どもたちの気持ちを考えながら、どんなものかなと思って拝見しました。その中で、どの教科書も読みやすく扱いやすいなど感じるのですけれども、一番私が1年生の教科書を見ていて顕著だと思ったのが、東京書籍の1年生の作り方が、これは上・下巻に分かれていますけれども、上巻の冒頭から下巻にいくに従って、難易度が緩やかに上がっていく。ほかの教科書は割と、私の印象ですけれども、早い段階から文章の多いお話が入ってくるのですけれども、東京書籍さんのこの教科書は、出だしは割と言葉遊びだったり、非常にぱっと見る印象の文字の数が少ないところから、徐々に物語がふえていくと。1年生の下巻になると、非常に国語らしいというか、長めの文章がいっぱい入ってくるという、その難易度の上がり方というのが、最初の特に1年生の一番最初の国語というところで、いきなり難しくなってしまうと、ついてこられる子はいいのですけれども、先ほどの観点の①のつまりきやすい児童でもという観点で言うと、徐々に難易度が上がって行って、楽しみながら国語に触れて行って、それで1年生を終えられるというのは、すごくアドバンテージが大きいのではないかなというふうに感じました。

これをきっかけに、ほかを見るんですけれども、非常に見やすく、読みやすい教科書で、私としては東京書籍さんの国語が扱いやすいのではないかなというふうに感じました。

○村松教育長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○村上委員

私は、全部中身を4社見せていただいて、どれも本当に読みやすく工夫がされていて、いい文章を取り入れられているなという感想を持ちました。

その中でも、光村図書が私はすごくいいなというように感じました。それはどうしてかといえますと、いろいろな挿絵だったりとか、写真だったりとか、そういうものを皆さんすばらしいものを使っているのですが、光村さんの、特に私がよく見たら、5年生の教科書で、その勉強する科目以外のところで、日本の文化や情緒を伝えるような写真であったりとか言葉を載せていて、日本の文化ということを知るのに、とてもいいのではないかなというように思いました。

また、漢字の書き順なども、低学年、2年生なども、毎回丁寧に、教科書に提示されていたというのがいいなと思いました。

また、先ほどおっしゃっていた東京書籍さんについても、ノートのとり方のページがあったりとか、話し合い方の手順が載っていたりとか、教科書、授業を進める上でいいなという点もありましたけれども、情緒を伝える、日本の文化を伝えるということで、光村さんがいいかなというように思いました。

○村松教育長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○若林委員

教科書採択は今回初めてさせていただいたのですがけれども、久しぶりに教科書を見て、3年生だったのですがけれども、色調とか、どの社も本当に工夫がよくされているなと思って、まずは楽しく拝見させていただきました。

国語なのですがけれども、私も光村図書さんだと思っているのですが、日本語の言葉を何度も丁寧に、繰り返し調べたり、文章だったり、言葉を大事に取り扱っているなというのがうれしくて、やはり国語というのは、読み方を教えるとか言葉を教えるというよりも、言葉を使って人との意思の疎通をしていく道具の一つなので、そういう意味では言葉が大事にされているということが、読みやすくよかったなと思いました。

○村松教育長

今、東京書籍と光村についての話が出ましたが、それ以外の教科書について何か御意見はありますか。よろしいですか。

まず、この2社に関して、これ以外で何か。

○星山委員

既に話が出ているのは2つですけれども、学校図書と教育出版も、すごく工夫されていて、バランスもとてもよかったのではないかなと思っているのですけど。全部拝見していて、私も光村がいいかなと思ったのは、国語ってやはり教科書はきっかけにすぎなくて、そこから言葉を通して自分でいろいろな読書とか文化とかに興味を広げていくということがとても大事かなと思いましたので、そういうきっかけづくりということからすると、シンプルなところがとてもいいかな。ほかの出版社さんもとてもいいかなと思ったのですが、国語的観点にすると、ほかの方がおっしゃっていたように、言葉の持つ意味というのを一番掘り下げているのではないかなと思って、私も光村がいいなというように感じました。

○村松教育長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

それでは、今、具体的に、一部教科書の評価ということでは出ましたが、光村とそれから最初に東京書籍、2社について評価がありましたので、この2社について採決をしていきたいと思います。教科もたくさんありますので、事前の学習会も行っているということもあって、ここで採決をしていきたいと思います。よろしいですか。

それでは、先ほどお話ししたように、挙手での採決ということになります。では、東京書籍がふさわしいと思う方、挙手をお願いします。

(挙 手 1 名)

光村図書がいいと思う方、挙手をお願いします。

(挙 手 3 名)

それでは、国語については光村図書ということで決定をいたしました。

では、次に「書写」について。書写についても、今のように御意見をいただきながら絞っていきたいというように思っています。いかがでしょうか。

○村上委員

私は採択検討委員会に出ている、学校の先生からの報告を聞いていたのですが、国語の授業と書写の教科書というのは関連が深く、物語の中の言葉の一文を書いたりなど、そういう関連があるので、同じ教科書がいいのではないかというお話を聞きましたので、光村がいいのではないかなというように考えています。

○村松教育長

ほか、いかがですか。

○若林委員

私も光村がいいなと思ったのですが、「とめ」とか「はね」とか「はらい」というのがわかりやすく、そのほかの箇所でも振り仮名がしてあるなど、とてもよかったなと思いました。また、ほかの教科とのつながりも見えていたので、いいのでは。書く、書写というのは、やはりいろいろなことを書くという窓口であるから、手紙の書き方とか、そういうつながっていくところも載っていたので、わかりやすいかなと思ったのですけど。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○塚越委員

私は国語に引き続いて東京書籍さんがいいなと思ったのですけれども、なぜいいなと思ったのか、今、こちらが東京書籍さん、こちらが光村さん。私、小学校のころを思い出しながら見ていたのですけれども、書写って、すごく瑣末な話なのですけど、こっちのほうが判型が大きくて見やすいのと、ぽっと開くのですね。光村さんって、ごそごそとすると、書くときにすごい、どこに置いたらいいのかわからないという、本の形の扱いやすさと、あと何といても、この大きい判型の中で見本が見やすく、大きく置かれている。先ほど村上委員がおっしゃられた、同じ会社だと関連があるものがあっていいと、先生方がおっしゃられたというように言っていましたけれども、拝見すると、そんなに国語のお話と関係あるようなことでもなさそうだなと、ざっと見ていて思いまして、であれば、そこにこだわるよりは、私の私見ですけど、デザインが、レイアウトが見やすく、文字を写しやすい、書きやすい、見やすい教科書が使いやすいのではなかろうかなと思いまして、私は東京書籍さんがいいのではないかなと考えます。

○村松教育長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○星山委員

私も東京書籍がいいかなと思いますが、書き方のコツを「かぎ」という形で、丁寧に解説しているところで、今の開き方の話もありましたけど、子どもが使う側に立って、とてもわかりやすくガイドされているので、使いやすさはとてもいいのではないかなと思いましたので、東京書籍がいいのではないかなと思います。

○村松教育長

今、東京書籍と光村図書の2社についての御意見でしたけれども、他にはいかがでしょう

か。

○村上委員

今の子どもたちの使い勝手についての御意見があったのですけれども、そのときにやはりお話があったのですけれども、実際に文字を書くときには、こちらを紙の大きさと同じようにコピーしたものを見本として子どもたちが書くというふうにお話を伺っていたことをお伝えいたします。

○村松教育長

他社の教科書について、よろしいですか。

では、東京書籍と光村について、その他でまた何か御意見とか御感想とか。よろしいでしょうか。

では、一応皆さん発言されたので、これについても採決ということでさせていただきます。では、挙手をお願いします。東京書籍がいいと思う方。

(挙 手 2 名)

光村図書がいいと思われる方。

(挙 手 2 名)

では、同数ですので、私のほうの意見を。私は、教科書もそうですけれども、それぞれ編集した意図もあると思いますので、趣意書、教科書会社が出しています。こういう目的で、こういうことをねらいとしてつくっていますという趣意書のほうも、ある程度参考にさせていただきました。その中で、私も国語科の教員として授業をやっていたことを思い出しつつ、先ほど星山委員が話していた日常的生活の中でどれだけ国語の力を伸ばしていけるかという視点を強く、趣意書の中でそういうことを意図して作成をしているということが感じられたのが光村図書でした。どちらもそれぞれ国語が言語活動として必要だということは書いてはあるのですけれども。これはさらにその趣意にとって教員が授業をしてもらうということも前提としてありますが、日常の各活動、各場面に結びつきやすい。それからあと、生活全体に関連する他の教科も含めてですね、関連があるということであると、光村図書のほうがそういう趣旨が明確でしたので、私は光村図書ということで、そちらのほうに入れますので、結果は3対2で光村ということに決定をいたします。

では、次、「社会科」。では、社会科について。では、御意見はいかがでしょうか。

○星山委員

私は、社会は東京書籍がいいと思いました。中身と違う観点なのですけれども、今、子ど

ものランドセルが重くて、特に高学年になるとすごい量、重さなのですね。社会は特に内容も多いので、いろいろな考え方があるのだと思うのですが、私は分冊にするというのも一つかなと思いましたので、そういうところがいいなと思いました。

それから、特に私は高学年を中心にちょっと注目してみたのですが、いろいろところで歴史なら歴史を一目で理解できるような工夫がされていたりして、私は一番使いやすいのではないかなと思いました。

○村松教育長

他にいかがですか。

○塚越委員

私は社会に関しては、特に4年生を中心に拝見したのですが、近しいというか、どの教科書でもそんなに大きく違わないのではなかろうかなというように感じたのですが、その中でも扱いやすそうだな、授業が進めやすそうだなと思ったのは教育出版さんです。4年生の教科書、どれもキャラクターというか、子どもたちが出てきて、対話形式で話が進んでいくのですが、それが割とどの教科書も特定の地域の話題だったりするんですね。そこを章立ての後半で自分たちの生活とか自分たちのより実感のあるテーマにつなげるように投げかけるような問いだったり、考えるきっかけが一番込められている。具体的な個別事例からそれを自分たちの暮らしに近いものに投げかけるという、そのつながりがとられている教科書というのは、想像ですが、先生方の授業が作りやすいのではなかろうかなというように感じました。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○村上委員

こちらの社会に関してですが、2市1町の合同調査研究委員会の結果の資料で、本校の子どもたちの実態から見て適切であるかという欄が最終的にあるのですが、その評価が、東京書籍さんがものすごく抜き出ているので、そういうところがということで、そういう視点でちょっと見させていただきました。その中で、対話的な形で進んでいて、ほかのそういう進み方をみんなしているのですが、対話のやり方の一つ一つの子どもの考えを深めるような言葉を選んで書いてあるところがいいなと思いました。

○村松教育長

この間の2市1町の委員会と言うと、子どもの実態で一番点数が高いのは教育出版ですね。

○村上委員

すいません、私も混乱してしまっ。教育出版がいいと思います。

○村松教育長

他にいかがですか。

○若林委員

保育園の子どもなんかを見ていて、体格がすごく差が大きくて、体の小さい、体格の小柄なお子さんもありますし、ランドセルなんか重たくなるのを考えると、上下に分かれていたの
がいいなと。結構1冊だと重たそうだなと、社会などで思ったのですけれども、上下に分か
れていたのと、教育出版も、3年生は多分分かれていましたね。その辺もちょっと考えよう
かなと思って見ました。私は、社会は教育出版がわかりやすいと思います。

○村松教育長

今、教育出版と東京書籍についての御意見をいただきました。他社についてはいかがです
か。特にはよろしいですか。

では、この2社について、さらに御意見があれば。

事務局のほうに伺いますけれども、社会科ですから社会科見学とか、そういう学校行事等
にも関連してくると思うのですけれども、これに関しては、どこの会社が、関連が深いとか、
逆に関連…学校行事に影響が出るとかという、そういうことは何かありますか。

○内田学校教育課担当課長

どちらの教科書を採択されても、特に学校行事等には影響はないということを調査員の報
告で伺っております。

○村松教育長

わかりました。他にいかがでしょうか。

よろしいですか。それでは、社会科について採決を行います。それでは、東京書籍がいい
と思われる方。

(挙 手 1 名)

教育出版がいいと思われる方。

(挙 手 3 名)

では、3対1で社会科については教育出版ということになりました。私のほうもですね、
先ほど一番気にしていたのが、教科書だけではなくて、学校行事、それから社会科見学等
ですね、トータルとして社会科の教科書が有効になるということが視点で、これについては各

社、それぞれ配慮をされていたようなので、今の決定どおりというように考えております。

では、次、「地図」に入ります。地図について、いかがでしょうか。地図は2社。

○村上委員

私は帝国書院の地図帳がいいなというように思っています。というのは、地図帳の最初の導入のところですね、導入のところに「地図って何だろう」というところから始まって、地図の約束、北が上だよとか、本当にわかやすい形で、地図記号であったりとか、方角のこと、方位自身の見方まで、すごく丁寧に最初に、何ページですかね、結構な枚数を使って書かれている。これがすごく今までの地図だと、すごく小さなところに細かい字でまとめられていたようなものを、子どもたちが地図帳と親しむきっかけになるような形で、大きく取り上げられているので、すごくいいと思います。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○若林委員

私もそういう地図記号とか、最初にちゃんとわかりやすくなっているのと、地図帳ってずっと家に置いてあって、みんなで何か記号なんかもよく見るような形で、すごくずっと見るものだと思うのですね。助かるものだと思うので、中の絵のアイコンなんかもすごくよく、かわいく載っていて、特産品とか、見やすいなというのが印象で、帝国書院が見やすいのではないかなと思っています。

○村松教育長

ほかはいかがでしょうか。

○星山委員

今も出してくださったのと一緒で、私も帝国書院がいいかなと思います。東京書籍のは、子どもが使うのに工夫がたくさんされていて、いいかな。特に導入するにはいいかなという点がいっぱいあるのですが、地図帳として、学びのきっかけにするだけではなくて、ずっとなれ親しんで使うには帝国書院のほうがいいかなと思いました。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○塚越委員

私も両方見させていただきまして、最初に村上委員がおっしゃられた冒頭の地図帳の使い方の丁寧さ、ここに恐らく帝国さんは随分ページを割いて、地図の見方が入ってくるという

か、わからなくなったらそこに立ち返ればいいというページが比較的新鮮だし、すごくいいなと思いました。地図帳の本体そのものは、どちらも非常に興味深く見させていただいて、特産品がアイコンであちこちに書かれていまして、それを見ているだけでもそこに行ってみたいとか、僕の知っているまちのそばに、こんなものがあるんだなんていうのは、すごく細かく、神奈川県だけでも見ていておもしろいなと思うようなものがありまして、私は地図としてはどちらでも、どちらも使い方としては非常にいいだろうなと思いますが、冒頭のそのこのガイドのあり方という意味で、帝国さんがいいのではないかなというように思っています。

○村松教育長

ということで、今、帝国書院についての御意見ですが、他はよろしいですか。

地図帳については、来年度は3年生からの配布ということですから、来年度は3年生と4年生に移行措置ということで配布すると。その後は3年生から地図帳を使うということで、今までの4年生よりもさらに地図帳の導入について力を入れているということかなと思っています。

それでは、現在、帝国書院について4名の委員さんから推薦の意見がありましたが、確認をいたします。採決ですね。地図帳については帝国書院ということによろしいですか。挙手をお願いします。

(挙 手 全 員)

では、地図帳については帝国書院で決定をいたしました。3年生の導入の段階で、せっかくですから、ぜひ今のところを丁寧に使って授業をやっていただければと思います。

では、次「算数」にいきます。算数については、資料を。

では、算数に関して、いかがでしょうか。

○塚越委員

算数は、事前に拝見した中で、すごく各社の色が、私、1年生と4年生を中心に拝見したのですけれども、ばらばらというか、工夫がそれぞれなされていて、事前の勉強会でもすごく議論が紛糾したり、なかなか難しいなと思って読ませさせていただきました。

中でも私、算数も1年生を中心に拝見したのですけれども、1社、すごく1年生の初めて算数に触れるというところで、いいなと思ったのは2社ありまして、1つは啓林館さんの算数が、最初のしばらく、ほぼ言葉がないんですね。直感で、これは何と、この場でお伝えするのは難しいのですけれども、絵を見て、そこに書かれている写真一つがすごく感覚でわか

るというか、直感でわかるような仕立てを工夫されているのだろうなど。各社とも算数の導入って、割とそういう絵とか物とかを使うのですけれども、私が感じたのは、啓林館さんの教科書が、例えば一つの絵の大きさとか、散りばめられた絵の数とか、使っている色合いとか、そういうものがごちゃごちゃしすぎず、あまねく広いお子さんたち、いろいろな感性を持たれたお子さんたちが直感でぱっと入っていただける。そういう仕立てに非常に工夫していらっしゃるのではなかろうかなということが、この教科書の仕立てから伝わってきました。それは逗子の教育がいろいろな多種多様の子たちにとっての多様な学びの機会をつくっていくという、僕らの市の方針と非常に適した、扱いやすい教科書なのではないかなというように感じました。

同様に、導入の算数として、やはり扱いやすいだろうなと思ったのは東京書籍さんで、東京書籍さんはこの分冊、1年生は分冊しているのですが、1年の1と2と、判型が全然違うのです。やはりこの1年の冒頭の教科書の判型が大きいというのは、恐らくいろいろなお子さんたちが見やすく、ぱっと直感で伝わるという工夫をされているのだろうなという理解です。やはり算数、最初につまずくと、その先がなかなか厳しくなってくるので、その一番最初の導入で算数が好き、数字と遊ぶことが好きなんだと思わせる工夫がされている2社は、その観点においては非常に抜きこんでいるなというように感じました。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○若林委員

東京書籍と大日本図書がいいなと思っているのですが、算数の3、4年生を見ているのですが、算数とかも、それをぱっと教える、結果を教えるというよりも、算数の計算が手順なわけで、その手順をみんなで、1人だけじゃなくて隣の子どもとか、クラスだったりグループだったり、いろいろ出し合って、答えが違っていたら違ったで、またそれを検討できるような、考える過程が大事で、保育園なんかも今、状況が変わって、認知能力とかというところが大事になってきているので、答えが合って逆算もあるんですけども、でも、両方見ていると、その点が何人かのグループで、4人の考えを説明しましょうとか、そういった形で、自分と違った意見も聞いていくみたいな形で、計算する手順ね、一つずつやっていくんじゃないかなというのが、結果を覚えるのではなくて、プロセスを考えるということにつながっているのかなと思って、あとは先生たちの授業の進め方だとは思いますが、教科書からそのようなことを思いました。

○村松教育長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○星山委員

私は算数は東京書籍さんがいいなと思っています。算数って、最初わからなくなると、すごく、嫌いになるか好きになるかとても大事なのですけれども、教科書は読みやすさがとても大事だなと思っていて、私も教えていたものですから、例えばページをめくるときとか、それから数を数えるとき、いろいろなモチーフが出てきて、いろいろなところで数を数えるところがあるのですが、ユニバーサルデザインの工夫と、今もうどこの会社も入っているのですが、本当のユニバーサルデザインは学びにくい子の特性をちゃんと理解しているかで、結構教科書づくりに差が出る気がしていて、数って、ぱっと見たときに見える子と見えない子がいて、見えない子って色のコントラストはちゃんとつかめていなかったり、タイルのところ、数の分かれているところが見えにくかったりするのですね。東京書籍のは、どの学年もそこがものすごく見やすいですね。そこがほかの会社のものも工夫はされているのですが、肝心なところが結構見にくいところが多くて、そこが私はいいなというように思いました。以上です。

○村松教育長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○村上委員

私は、一つの科目について、全部を比べたらわかりやすいだろうなと思って、つまずきやすいだろうと思われる小数の掛け算のところでは比べてみました。一つの、本当に導入のところで、漫画から始めるものもあれば、多く使われているのが黒板に書いてあるところをそのまま絵にしているものが割と多いのですけれども、私は東京書籍のものが一つ一つ、一個の計算について何ページにもわたって細かく説明している。また、小数の桁をすごくこんがらがって、子どもたち、学童で見えても、なかなか教えるのが大変なのですけれども、それをこういう仕組みでなっているよということを言葉でしっかり書いてあって、これを読めばきっとすぐわかるだろうなというような、小数点の位置についての説明があったりとか、あと先ほど星山先生がおっしゃっていた全体の見やすさ、色の配置の仕方などを、あとまた一つ一つわからないだろうと思われるパイプの絵を、パイプという言葉が出てくるのですが、パイプの絵をそこに加えてあったりとか、わかりやすくしているので、私は東京書籍がいいと思いました。

○村松教育長

ありがとうございました。算数は今、3社名前が出てきています。東京書籍、大日本図書、啓林館、3社出ていますので、これについてももう少し御意見をいただきたいと思います。

○塚越委員

勉強会のときに村上委員が何か、僕、低学年を中心に見ていて、割り算の計算のしやすさとか表現のしやすさみたいなことをたしかおっしゃったような気がして、それってどこでしたっけ。何か言いませんでしたっけ。

○村上委員

5年生の小数の掛け算のところですね。桁のところがすごくわかりやすく、小数掛ける筆算の仕方を言葉であらわしているという。

○塚越委員

それがどこでしたっけ。どちらの教科書。東京書籍。

○村上委員

はい。あと、たしかA4、小学校の1年生がA4の大きさと、使いやすいのが東京書籍。

○村松教育長

東京書籍についての評価は皆さんあって、それプラス大日本図書と啓林館と、そんな感じですけども。

○村上委員

あと、大日本では外国の子どもがナビゲートをしていたり、読み物がついていたとか、車椅子のインクルーシブの視点が入っているという点では、すごくいいなというふうに思いました。

○村松教育長

ということで、比較的いろいろなよさが出ておりますが。最終的には絞らないといけないので。もうちょっと御意見をいただき、その後、採決に入ります。

啓林館については、先ほどスタートのときの意見がありましたけど、他の学年ではいかがですか。

○星山委員

目がよく見える方にはすごいわかりにくい差なんですけど、色など見えにくい子で、数学が、算数ができる子が結構多いものですから、教科書をわからなくなると、すごくもったいないなと思っているんですけど、思いがけないところで結構つまづくことが多くて、字とか

数字とかの輪郭がよく見えない子が今、増えていますね。だから、色のコントラストとか、それからページのところの配慮とか、細やかなところが、空間認知が非常に捉えにくいお子さんが今、通常級にたくさんいらっしゃるので、そこは算数の教科書をつくる時にすごく配慮が必要ではないかなと、ずっと前から思っているのです。どこの会社のも、そののわかりやすさ、工夫していらっしゃるのですが、でも、まだ見にくいところがすごくあって、見えなくなっちゃうと、やはり嫌になっちゃう子も多いものですから、私はやはり情報保障というところではつまづかないために、少なくとも見やすいデザインというのですかね、そこが大事かなと思ったものですから、やっぱり東京書籍がいいなと思いました。でも、いろいろな御意見があるので。

○村松教育長

いかがですか。

○塚越委員

星山先生の観点で、僕の目には啓林館も見やすいなと思って見たのですがけれども、具体的に東京書籍さんがここがその観点でデザインというか、使いやすい。

○星山委員

ページが見やすいですね。結構、63ページをあけてとか言われたときに、そこでだめなんですね。それから、実際に物がたくさん出てくるのですね。概念をつかむところの。その輪郭がわからないのですよ、結構。輪郭というか、例えば筆算の書き方が書いてあったりしても、見えないのですね。実際教えてないとすごくわかりにくいところなのですが、多分このつくっていらっしゃる方がそのフィードバックがいっぱいかかっているのではないかなというところが、すごく輪郭がはっきりしてしまっていて、そこが、ちょっと特別支援的な要素が多くて申しわけないのですが、配慮がよくされているのではないかなと思いました。

○村上委員

ちょっと事務局に質問で、今、特別支援のお話が出ましたけども、特別支援のほうの教科書の使い方というか、使われ方というのは、どのようにされているか、教えていただけますか。

○内田学校教育課担当課長

お子さんによって違うところはありますけれども、交流をしているお子さんというか、交流を逗子市の場合は積極的に進めていますので、同じ、普通級のお子さんと同じ教科書を使って特別支援学級のお子さんも勉強しているという状況です。

○村松教育長

教科書としては通常級の教科書と一緒に採択をし、特別支援のほうは、また別に用意すると。基本的にはこれと同じもので学習するということですね。よろしいですか。

よろしいですか。では、今、名前が挙がった3社について、挙手で決定をしていきたいと思えます。3社のうち1社に挙手をお願いします。確認です。東京書籍と、出てきた順でいうと、啓林館、東京書籍、大日本図書という、この3社で挙手をお願いをいたします。

じゃあ、まず啓林館がいいと思う方。

(挙 手 1 名)

東京書籍がいいと思われる方。

(挙 手 3 名)

大日本図書がいいと思われる方。

(挙 手 0 名)

それでは、東京書籍ということで決定をいたしました。これについては、私も勉強会で相当いろいろな御意見がありましたので、いろいろさまざまなデータを見まして、2市1町の中で、これは前回の教科書採択もそうでしたけど、やはり今の発言の中でもつまずきやすい子どもたち、児童にとって使いやすいというのは、やっぱり算数が一番皆さん関心が高いですし、そこについて興味があるということで、2市1町で言うと、児童が使いやすいような工夫や配慮がされているかというところについては、東京書籍が最もポイントが高かったです。これ事務局のほうで逗子の状況も把握されてると思いますけれども、逗子の状況として、この児童が使いやすいような工夫や配慮がされているかというところについてはどうですか。

○内田学校教育課担当課長

逗子市の教育研究会の報告で、児童が使いやすいような工夫・配慮がされているかという項目につきましては、東京書籍さんが市内5校中全部の学校がチェックを入れています。

○村松教育長

はい、わかりました。ということで、現場の声と教育委員さんの考え方が一致したということで、再度確認をさせていただきました。ありがとうございました。

では引き続き、「理科」にいきます。では、理科についてはいかがでしょうか。今年度、私、県の教科書採択の審議会のメンバーにも入らせていただきました。神奈川県は、各市町村に参考資料として全部の教科書についての調査研究の結果を提供するという役目がありまして、各社ありましたけれども、その中でも本当に先生方が細かく見て、評価にならないよ

うに特色だけをきちんと書いて、そしてよさを伝えるということで、正直、そこを聞いていると、選定がかえって難しくなるぐらい、この社はこういう点がいいですよというのが、全部の会社について書いてあったので、よさは本当によくわかるんですけども、採択って本当に難しいなということを出れば出るほど感じております。感想でした。

理科はいかがでしょうか。

○塚越委員

理科、5社拝読しまして、先ほどの星山委員のお話でしたっけ、判型あまり重たくないものをという話がありましたけれども、この中で、多分一番判型が大きいんですけど、私はこの教科書は理科では一番いいんじゃないかなと思ったのが、東京書籍さんでした。

理科は本当にどの教科書も細かく見ないと、大きな違いは、学習指導要領で扱うことは決まっているので、大きな違いが出づらいつ教科なんだろうなというように拝見したのですけれども、思想として、何だろうな、理科って結局は実験をして、自分たちで手を動かして答えが出た。その答えから考察して、こうだったのかな、こうだったのかなと仮説を整えるという、そういう流れを回していくということが、どの教科書もそういう立てつけになっているのですが、一番、考察の部分に力を入れている、考えを広げることには重きを置いているのが東京書籍の教科書ではないかなというふうに思ったのです。ともすると、教科書によっては、もう答えありきというか、実験はおまけで、覚えるべき結果がこれなんですというような立てつけになっているように私は感じる教科書がいくつかありまして、理科というのはそういうものではないんじゃないかなと。例えば、実験の結果が違ったとしても、この教科書に書かれていることと違ったとしても、それを受け止めて、じゃあどうするかと。そこからどう考察ができるかというか、問いに対して答えが一つではなくて、いろんな答えがある中から、どうやって考えていくか、そういう考えるプロセスのきっかけになるのが教科書だったらいいと思うし、理科はそのぐらい、科学を考える心を育むものであんならいいなというように、私の私見も入ってますけども思います。そのようなきっかけづくりを一番端的にやろうとされているのが、この東京書籍さんの教科書ではないかなというように思い、私はこの教科書がいいと考えています。

○村松教育長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

○村上委員

私も、本当にどの教科書も写真もきれいですし、考え方の持っていく方がまたそれぞれな

のですけれども、実験に工夫があったり、あと子どもたちが実際に動いている写真を多く取り入れたり、本当にこの生き物の写真はどうやって撮ったんだろうと思う、感心するようなものばかりですごく悩みました。

先ほどの2市1町委員会の資料で、やはり本校の子どもたち、ここの三浦半島の子どもたちに、どれが合っているのかって先生が一番評価の高かったのが大日本でした。私はこの中では、大日本と東京書籍がすごくいいなというように思っていて、まず、この教科書が大きいので重たいからどうなんだろうとか、いろいろ思いましたけれども、写真にすごく魅力があるのと、あとページの割り振りだったりとか、すごく見やすく書いてあるのですごくいいなというふうに思って、じっくり、やはり5年生の教科書で一単元ずつ見比べるような形で確認をしていきました。

そうしたところ、なぜ先生が大日本がいいというふうにおっしゃるのかということが、私自身で、ああ、納得というように思うところがありまして、それは要点をわかりやすく説明する、ほかのいろいろな教科書でそのようにされているのですけれども、子どもたちが受け入れやすいような言葉で表示されているということと、あと、理科の玉手箱というものがあるのですけれども、学んだことを実際の生活の中で生かせる話が、それは興味のある話で展開されているということで、ほかの教科との結びつきも考えられている。あとは実際、実験の様子で、同じ実験をするのでも、脱脂綿の上に乗せるとか、あとバーミキュライトの上に乗せるとか、いろんな種の発芽の仕方があって、それが実際に子どもたちが教室でやりやすい、準備しやすい教材で実験をされていたというのが、学校に実際やっていく中で、とてもやりやすい点なのかなと思いました。ということ踏まえて、私は大日本がいいと思います。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○若林委員

大日本図書と東京書籍でよく見ていたんですけど、東京書籍、やっぱり写真とかきれいで見入ってしまうというか、それだけでも楽しめるような感じがありますし、ただ、目標を意識して観察していこうというのでは、何でというのを、気持ちをわくわくして見ていけるというのは大日本図書がいい感じなので、大日本図書かなとちょっと思っています。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○星山委員

現場の先生方のいろいろな御意見伺っていると、大日本がすごく評価が高く、構成上の工夫とか配分とか、とてもいいということだったので、私も大日本と、それから東京書籍を大体見比べました。さっきちょっと重いのはどうかなというお話出たのですが、理科はみんなどれも重いですね。やっぱり写真とか実験とかいろいろあるから無理もないのですが。それから、さらに大きいということもあって、そこがちょっと難点かなというふうに思ったりもしましたが、仕方がない部分もあるかと思います。

私はその2社を見比べても東京書籍がいいなと思ったのですが、それはやっぱり、仮説を立ててどうなるのかなということを考えて、結果がどうであれ自分の力で考えて、それを検証するというのがやっぱり科学の考え方の方法なので、あまりいろんなことが書いてあっても、これの答え合わせで、これが合ってるのか合っていないのかという、何かちょっと答えの誘導的などころがあまり教科書に書き込まれていると、特に賢い子たちなんか、それをばらっと見て、何か答え合わせみたいにすると、ちょっとおもしろくないかなという気持ちと、それと実験のノートの書き方とか、それから詳しい自分が書きやすいように、観察しやすいように書く書き方とかは、私は東京書籍のガイドの仕方がとてもいいかなと思いました。

○村松教育長

ありがとうございました。大日本図書と東京書籍について、今、御意見をいただいていますので、もう少し何か御意見があれば。

○塚越委員

今の星山先生のお話にかぶせるようで、すごく、この2社どちらもいいという前提で比較で見て、大日本図書さん、東京書籍さんの教科書を拝見してますけれども、私も、答えの、もちろん誘導の意図はないと思うのですが、答えの誘導的などころか、それともいろいろな考え方を促すかというところと言うと、大日本図書さんの各単元のおしまいが、「結論」という言葉で、さらにそこに地色がぱっと引かれてるのですね。それは星山先生のおっしゃる、それはまさしく回答ここです。直感でわかる子は、もうぱっと教科書めくって、そこだけを見て、ああこういうことだねってもったいないなって、やっぱり小学校の理科では思いまして、東京書籍さんはやっぱり思想があらわれてると思うのは、結論に当たる部分が「まとめ」と書かれてるんですよ。地色も引いてないのですね。もちろんまとめなのですね。多分、実験からわかることからの考察ですし、書かれてる趣旨はこちらの結論と一緒にのすけれども、この仕立ての違いというか、ここだけ見ておけばいいんだというのではなくて、これまでのプロセスをまとめるとこうなるんだけど、どう思うという余白というか、考えるスペ

ースがある教科書って、恐らく子どもの理解の振れ方として、すごく広がりを持っていいのではないかなと私は思いました。

○村松教育長

ほかにいかがですか。よろしいですか。

では、大日本図書と東京書籍について、今、御意見をいただいていますので、これについて採決をさせていただきます。最初に出たのが東京書籍ですね。東京書籍と大日本図書という順番で採決をいたします。

では、東京書籍がいいと思われる方。

(挙 手 2 名)

大日本図書がいいと思われる方。

(挙 手 2 名)

では、同数ですので私のほうの意見を。私はですね、先ほどの趣意書、それぞれの教科書のどういう視点をもってつくったかという趣意書の内容と、あと、逗子として理科の環境としてどういう特色があるかという2点をちょっと考えました。まず、逗子のほうというと、あまり多くないと思いますけど、理科ハウスという民間の理科の実験を体験させてくれるところがありまして、ちょっとお休みしてましたけれど、また子どもたちが自由にそこに行くと実験ができる、実験をさせてもらえるという、小さなところですけど、そういうすてきなところがあります。それから、あとは自然で言うと、池子の自然の森、それから海。海は比較的日本いろんなところであると思いますけど。それから、あとは直接の理科の教科ということではないのですが、災害に強いとか異常気象とか、これもやっぱり相模湾のことを考えると、東京湾以上に危険度が高いということで、逗子にとっては非常に影響の大きいところです。そういうところが生かしやすいかどうかということと、趣意書ということで、これも勉強会でもこの2社については御意見があったので悩んだ末、その割合がより高いものについては大日本図書というふうに判断をいたしましたので、私は大日本図書について1票ということになります。

ただ、先ほどの勉強の仕方、それから実験が思うようにいかない場合とかというのは、これは今後の教員の指導方法、理科専科の教員もおりますし、それから高学年で担任が理科を行う場合もあるとは思いますが、やはり自分たちの実際の作業、実験、その結果を大切にするという教え方、考え方については、どの教科書を使っても大事なことだとは思っていますので、これはまた広めていかなければいけないとこだなというように思いますが、教

科書としては大日本図書ということで決定をさせていただきます。ありがとうございました。

では次、生活科について、いかがでしょうか。

○若林委員

保育園から小学校に入学するという観点で、1年生のことをちょっと考えてみると、やっぱり入学した子どもたちがスムーズに学校生活に適應していけるように、編成したスタートカリキュラムだったりと考えると、学校探検だとか学校を知ることから始まって、いろいろな国語とか音楽とか図工とかに広がっていくんだと思うのですが、やっぱり対話的に深く学んでいけるというところを考えていくと、私は東京書籍さんをちょっといいなと思ったのですが。

○村松教育長

ほかにいかがでしょうか。

○塚越委員

私はまた別の観点で、教育出版さんと日本文教出版さんがいいなと思ったのですが、両者に共通しているのが、身近な自然に出て行って、四季折々の外の自然と触れ合うきっかけを生活の中でつくるという趣旨がすごく全面から伝わってきて、野原に行ってバッタを捕まえに行こうとか、秋になったら葉っぱだったりドングリを拾いに行こうとか、夏だったら海に行こうとか。このまちは私が仕事をしている、私自身の活動もそうですけども、このまちは海も山もある、身近な自然に囲まれているところにある5校の学校だからこそ、生活の時間には学校の中で閉じるのではなく、町に飛び出して、山に飛び出して、海に飛び出して、実際に触れるということをいろんな教科でやってもらえたらいいなと思っていて、それが生活の時間の中で教科書の中に上手に季節の移ろいと地域の自然とへの接点みたいなことが表現されているのが、この2社だなというように感じました。

○村松教育長

ほかいかがですか。

○星山委員

生活は本当に低学年向きで、どこの出版社もとても見やすく、好奇心を引く工夫がたくさんあると思います。それから、割と色も違って、強いというか、それぞれのよさが出ているのではないかなと思ったんですけど。私はやっぱり先ほどもちょっと話した観点からいって、情報が多く入り過ぎていてもわからないし、あと写真とかサンプルをとるときに、細かいところが見えない。大人には見えるんですけど、子どもに見えないものは載せないほう

がいいのではないかなと前々から思っていて、サンプルとしてお子さんのものを載せたりするのはわかりやすいのですが、それが何かわからない子にとっては、ちょっと難しいかなと思ったりしたので、やっぱりわかりやすさでいって私は東京書籍がいいなというように思いました。

○村松教育長

ほかいかがでしょうか。

○村上委員

私も東京書籍がいいのではないかなというように思っていて、必ず、このいろいろな場面に車椅子の子が出てきたりとか、インクルーシブな視点を取り入れられているって、生活だからこそという、小さいときから当たり前のようだという、みんな同じだよということを伝えるにはすごくいいなということと、やっぱり字がすごく大きく見やすく、子どもたちの表情がとてもよく入りやすいのではないかなという意味で、いろんなことを一つの言葉でいろいろなことに発展していけるようなつくりになっていると思うので、東京書籍がいいと思います。

○村松教育長

ありがとうございます。今、教育出版、日文、それから東京書籍と、この3社の名前が出ていますので、この3社について、さらに御意見があれば。

○塚越委員

手元に上巻…上巻は多分そっちにあるので確認できないのですが、日文が安全に関して結構ページを割いていたなと思います。上巻こっちにあるのか。あった。すみません。身の回りの安全みたいなことで、見開きか。多分、安全って我々、安全・安心というのを逗子市が非常にこだわっていることなので、そこがこの冒頭でコンセンサスを取りやすいもの。もちろん、教科書を使わないでもそういうことをやるのかもしれないのですが、というようなページを割いてるのは、私は逗子も子どもたちの安全、特にいろいろ災害も増えてきたり、いろんなことが起きる昨今においては、非常にいいのではないかなというふうに感じました。多分、他市にもあったと思うのですが、一番はっきりとページを割いているのが日文だったように私の記憶です。ごめんなさい。ほかの何かに載ったのだったら大変なことになりますけど。

○村松教育長

ありがとうございます。ほかいかがですか。

では、よろしいですかね。では、今、名前が挙がった3社で採決をしていただきたいと思います。順番は日文が先でしたっけ。じゃあ、日文、教育出版、東京書籍の順番で採決を行います。よろしいですか。

では、日文がいいと思う方。

(挙 手 1 名)

教育出版がいいと思う方。

(挙 手 1 名)

東京書籍がいいと思う方。

(挙 手 2 名)

分かれましたが、多数決でいうとですけど、私のほうでさらにですね、東京書籍ということで、東京書籍が3となります。

東京書籍は、今回の教科書だけではなく、逗子としては教育部で幼稚園・保育園、それから小学校・中学校、18歳まで教育委員会として担当していますけども、スタートカリキュラムという言葉に関する資料が、最も多いものが東京書籍です。これは日常的な、教科書採択ですから、教科書だけがもちろんなのですけども、会社の方針なり、それから取り組みの重点という点でも、スタートカリキュラムについてはいろんな資料提供があるということで、逗子に取り組んでいるスタートカリキュラムの充実というところと一致するというので、東京書籍を私からも評価をしたいと思っていますので、生活科は東京書籍ということで決定をいたします。

では次、「音楽」です。音楽は2社ですので、2社について御意見をお願いします。

ちょっと事務局にお伺いしますけども、小学校合同音楽会がありますけども、このときの作品とか、そういうものというのは教科書によって指定されているとか、そういうことでしょうか。それとも、各学校に任されている。

○内田学校教育課担当課長

各学校の音楽の専科であったりとか、先生方に任されているということもありますけれども、選曲にあっては教科書に載っている曲を参考にしたりということはあると思います。

○村松教育長

教科書が変わることによる支障は特にはないということでよいでしょうか。

○内田学校教育課担当課長

それは特にはございません。

○村松教育長

わかりました。ということで、そこについては2社どちらでもということです。御意見いかがでしょうか。

○星山委員

私は音楽の先生なので、音楽のことはいろいろあるのですが。音楽は体裁とかいろいろなことよりも、曲だと私は思っていて、いろいろな見方があるのですが、現場の先生たち、そんなに教育出版と教育芸術社と大きく差はないように思うのですが、音楽って文化なのですね。今、合奏とか合唱とか、子どもたちの好きなものに寄り添うことが多いのですが、一方で日本の文化とか私たちが親とか何世代も受け継がれていくものというのが、いかに大事にされていくかということも含んでいて、音楽を通じて継承されるものっていっぱいあると私は思ってるのです。昔の音楽の教科書に比べて、共通してわかる歌とか一緒に何世代も歌える歌というのは、どちらの出版社さんにというのではないのですが、すごく大事にしていただけたらありがたいなとちょっと思っていて、2世代、3世代って歌と一緒に歌えなくなっていくというのは、やはりとても残念なことじゃないかなと思ったりしながら、子どもたちに音楽を教えたりするわけですね。そういう観点からして、やはり日本の文化とか伝統とか、なるべく誰もが歌えるような歌というのを大事に題材に選んでいってほしいなというところが大事なんじゃないかなって、ちょっと個人的には思いました。

○村松教育長

よって。

○星山委員

私は、というわけで教育芸術社のほうがいいかなと思いました。

○村松教育長

教芸ですね。ほかいかがでしょうか。

○若林委員

私も教育芸術社なんですけど、1年生の教科書を見ると見開きに、1年生の学習1年間でこんな学習をするよという、保育園でもいろいろな歌を歌ったりリズム打ちだとかはやっているのですが、学校でどんなことをするのかという入り口で、この1年間の計画はすごくわかりやすいなと思ったのと、今、星山委員がおっしゃったように、保育園でも割と今どきの歌というのを保育士のほうも歌うことが、選ぶことが多くて、童謡だったりわらべ歌だったり、いろいろな昔からある歌を伝承して行ってほしいなという気持ちは本当にあるの

で、両方ともあったりなかったりで、新しい歌も両方バランスよく入っているのかなと思うのですけれども、そういうことを大事にしてほしいなということは思いますけれども、結果としては教育芸術社をいいと思いました。

○村松教育長

ほかいかがでしょうか。

○村上委員

私も星山先生が先ほどおっしゃっていた、歌を継承して何世代でも歌い継いでいくということをととても大切だと思うので、教育芸術社がいいと思います。

○塚越委員

教育出版さんの細かな、読みやすい教科書としての工夫みたいなものはすごく感じまして、このオーケストラがセロハンでどこにいるとか、あとは音のスケッチとか。僕、世代的にはやっぱりこういう 選定だとかね、いいと思うのです。非常にいいと思うのですけれども、僕も星山先生の熱い思いに、なるほど。確かに、子どもたちいろんな自分の子どもが音楽祭だったりでやっている曲なんていうことを聞くと、割とポップな、みんなが好きな歌を、自分たちが選ぶと、主体的に選ぶとどうしてもそういうものになりがちなので、逆に教科書ではトラディショナルなというか、歌い継いでいくような歌を、あえて子どもたちと向き合っていくというのがいいのではなかろうかなと思います。私も教育芸術社がいいと思います。

○村松教育長

では、2社のうち、今、教育芸術社についての評価がそれぞれ出ていましたが、ほかはいかがですか。よろしいですか。

では、一応、意見は意見として、採決をほかと同じようにいたします。教育芸術社と教育出版という順番で行います。

では、教育芸術社がいいと思われる方。

(挙 手 全 員)

では、音楽については教育芸術社ということになりました。私のほうも、学校とそれから子どもたちの生活と合わせて、やっぱりスタンダードなものを提供する場というのは、なかなか日常にはないので、子どもたちの自由な時間にはないので、そういうきっかけになればいいかなというふうには思っております。ありがとうございました。

では、次は「図工」です。こちらも2社ですので。資料をあけてください。図工についていかがでしょうか。

○若林委員

細かいことなのですけれども、開隆堂のほうの左の上にかういった、このページでつくるものの材料がぱつと目で見えるというのは、混乱しないで取り組みができるかなと。つまりくような子たちも。かういうことを用意するんだなっていう、目でわかるかなというのがかよつと安心がありました。

○村松教育長

開隆堂の材料ですね。ほかにかがですか。

○村上委員

両方ともすごくきれいに、楽しいものが工夫されて提示されていて、どれをつくってもきつと子どもたちは楽しく学んでいくんだらうなというふうに感じました。私は日本文教がいいと思うのですけれども、それは何が違うかという、一番後ろのところに木版、3、4年生だと木版の彫刻刀の使い方であるとか、のこぎりの使い方がすごく丁寧にかかれていて、あと材料なども書かれていて、自分でもつくっていくきっかけになるのではないかなというように思うので、これがいいかなというように思っています。

○村松教育長

ほかにかがでしょうか。

○塚越委員

私もこの図工の教科書を見ると、何か小学校のころのわくわくした気持ちを思い出して、楽しい気持ちで拝見しているのですけれども。この2社を比較して拝見すると、大体、やっぱり考え方の違いみたいなものがはっきり見えてくる気がしまして、日文さんは割と説明が多く、つくるまでのプロセスを一つ一つフォローしていく感じが伝わってくるのですね。開隆堂さんは、どっちかという、もっと直感であまり言葉もなく、こんな感じのアウトプット例ですみたいな。このテーマだったらこんな例があるよ、どうぞ。というように差し出し方をしてるよに感じまして、この私の図工のあり方と言うと、図工こそ何というか思いつくままに、きっかけだけを与えてくれて、あとは本当にその子の感性で好きにやっていくよ、このプロセスで順を追ってやっていくのですよというものではないよな気がして、あまり説明的でないよがいいよなというふうには感じまして、その観点で言うよ、開隆堂さんのよがより直感的に、そのプロセスをつくるのは子どもたちに委ねられて、先ほど、若林先生がおっしゃられた材料とこんな形のアウトプット例がある。じゃああなたどうするよというふうには委ねているよなスタンスに見えまして、より幅広い制作物に向かえるのでは

ないかなと思ひまして、開隆堂がいいなと感じました。

○村松教育長

他にいかがでしょうか。

○星山委員

何か図画工作はインスピレーションの話になっていくので、どっちがというのは本当に微妙な差かなと思うのですが。私は、自分が小学生だったころを思い出すと、やっぱりこれをぱっと開いたときに、ああ、こういうものをつくりたいとか、最初にわくわくする気持ちというのが大事なのかなと思ひまして、そのわくわく感がどっちが引き出されるかって、これは個人の問題だから微妙ですね。私は日文のほうがわくわくするんですけど、説明するとすると難しいよと思うんですけど、割と刺激がたくさんあるので、その中から自分がこれかな、あれかなって考えるところが重要かなって、ちょっとまるで反対の意見。開隆堂さんのほうは、何かぼんと出てきて、うわって圧倒されて、こんなふうにやってみたいってヒットするとすごい何というんですかね、わくわくするし、ヒットしないとああって、何かそこはすごい分かれるところですね。だから、どちらがどっちって非常に難しいと思うんですけど、感性の問題かなと思ひますけど、私は、自分はやっぱり日文のほうが好きです。何かあっちこっちの中から拾いやすいというか、あれか、これかって。そんなふうを感じました。以上です。

○村松教育長

2社それぞれの御意見がありましたけど、ほかいかがですか。では、採決にいきたいと思ひます。最初に話が出たのが開隆堂さんね。では、開隆堂、日文という順番でいきます。

では、開隆堂がいいと思ひう方。

(挙 手 2 名)

日文がいいと思われる方。

(挙 手 2 名)

では、私の意見ですね。私は図工に関しては、あまりわくわくよりも自分が小学校のころは、最終的に作品が完成するかどうかをいつも気にして、それがなかなか最後まで行かなかった思い出があるので、ある程度のモデルがないと、イメージが教科書よりもさらに膨らむ子はそれはそれでいいと思うんですけどね、イメージがないと何をしたいのかわからなかったという経験等を考えると、個人の好みというよりも、教員のほうの子どもたちの理解が深まるような工夫というんですかね。苦手な子どもに対しての項目の評価があるほうをとい

うふうに考えていました。2市1町のほうでは、児童が使いやすいような工夫や配慮がされているかというところは、日文のほうの評価が高かったのですけれども、逗子のほうの資料ではいかがでしょうか。事務局のほうで。

○内田学校教育課担当課長

今の教育長がおっしゃった、児童にとってわかりやすく理解が深まるような方針の工夫・配慮がされているかというところについては、開隆堂が3に対して日文のほうは5。全ての小学校、研究員さんが5ということです。

○村松教育長

教員のほうでは、さまざまな子どもたちの実態に合わせてということですので、その評価が高いほうということで、日文ということで決定をさせていただきます。図工は日文。可能性をそれぞれ引き出すのと、それからイメージが湧かない子へのフォローと、それぞれ教員も頑張ってくれてくれると思います。ありがとうございました。

では次に、「家庭科」。家庭科も2社です。家庭科について、いかがでしょう。

○村上委員

私は東京書籍がいいと思っています。中もすごく見やすく、災害についてですとか、いろんな観点で家庭科を捉えている点もいいのですけれども、また、一番最後の巻末の部分で、左手の包丁の使い方が、割と実物大の大きさの写真で出ているというところから、自分たちの家庭科の教科書にはなかったことだなというように思っていて、縫い方についても、持ち方とか、針の押し方とかということも、左きき・右ききとも両方ほぼ実物大で写真が載っているんで、子どもたちはすごくわかりやすいのではないかなというように思います。

○村松教育長

他にいかがですか。

○若林委員

私も東京書籍なのですが、A4の大きさだったり、今言った左ききの児童の対応というのがすばらしいなと思っていて、やっぱり1クラスに二、三人いたりするので、困ってしまう子が出なくていいのかなというのがすばらしいとこだなと思ったのと、実習時の、実寸大で出ていたりするところもあるので、そういったところも見やすいかなというように思います。

○村松教育長

ほか、いかがですか。

○塚越委員

私、実は左ききの当事者でして、左ききの話題がすごい出ましたけど、本当に苦勞した記憶があるのですね。先生のやっていることと自分の手が全く逆で、見本がよくわからないというのを非常に苦勞して、それが、実はこれ、開隆堂さんも結構出ていまして、両社ともいいのではないかなと。チェックしてないですけども、これはQRコードまであるのが、またすごくいいななんて思って、そっちもありますか。（「あります」の声あり）そこはあまり差にならない。どちらも。本当に扱いがよくわからなかった。直感でという苦勞があるので、こういうものがきちんとフォローされている世の中ってすばらしいなというように思いました。結論になってないですけど。

○村松教育長

ほかにいかがでしょうか。

○星山委員

どちらもそういう点における配慮、すばらしいと思います。いまだに右ききのナイフとか包丁しか用意していらっしやらない学校もあるようなので、教科書からですね、やっぱりそういういろんな子どもたちがいる使いやすさについて解説していただくという視点が両方とも持っていて、とてもいいなと思いました。いろんなところで、それぞれ工夫がされているので、体験的な内容もたくさん入っていますし、というところだと思います。今のところどちらもいいなと思っています。

○村松教育長

ということですが、決めなければいけないですよ。

○村上委員

あと、勉強会で聞いたお話ですと、撥水加工になっているので扱いやすいのではないかと
いうふうに。調査研究会のときに。

○村松教育長

実習もありますのでね。それは、よってどちらの教科書ですか。

○村上委員

東京書籍のほうです。

○村松教育長

そちらはどうですか。

○塚越委員

わからないです。表紙について、どこに記載されているか。

○村上委員

記載されてるのかなと思ったんですけど、どこか見つけられなかったけど、調査研究会のとき…採択検討委員会のときに先生方の発表でおっしゃっていました。

○村松教育長

ほかいかがですか。

○塚越委員

正直、今、何かどちらもいいところが近くて、採択するのはすごく難しいなと思ったんですけども、逗子市の先生方の調査研究報告ってどのような形になっていて、例えば、点数に差があるのであれば、どんな観点で差があるのかみたいなことまで含めて、事務局から教えていただけるとうれしいです。

○村松教育長

いかがでしょうか。

○内田学校教育課担当課長

逗子の教育研究会の報告書、研究報告では、東京書籍のほうは41、それから開隆堂のほうは30です。大きく差があるというのは、まず、学習指導要領の改定における情報活用能力の育成に応じた工夫がなされているかという項目で、東京書籍が4に対して開隆が2。それから日常生活に必要となる基礎的な知識及び理論の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として取り上げるなど、工夫や配慮がされているかという項目に対しては、東京書籍が4に対して開隆堂が2ということです。あとは、それほど大きな差はありません。

○村松教育長

ちなみに、2市1町のほうでも東京書籍のほうの評価は高いということですかね。数値的には。では、それも踏まえて採決をいたします。では、東京書籍、開隆堂の順番で採決をいたします。

東京書籍がいいと思われる方。

(挙 手 全 員)

それでは、それぞれよさがあるということですが、家庭科は東京書籍ということになりました。先ほどの授業での左ききの配慮というのは、教科書とはまた別にですね、各学校にも伝えていきたいと思います。

では次に、「保健」。5社です。保健についていかがでしょうか。

○星山委員

保健も、とてもどの出版社もよくて、あまり差がなかったので迷ったのですが、私は光文書院さんの最後のページがとてもよかったので、これがいいなと思いました。共生社会のマークなのですが、今、いろんところでヘルプマークとかマタニティマークとか、あといろんな方が歩いていらっしゃるの、そのことに関して一目でわかるというところが、あえて違いを出すとすれば、ここが私は大変いいなというように思いました。

○村松教育長

ほかにいかがでしょうか。御意見を。

○村上委員

じゃあ、私もどの教科書も工夫されていて、自然災害のことについても子どもたちが対応できるような工夫が各社されています。それで、犯罪ですとか、そういうことについても、学研では学校や地域でのけがの防止ということにまで及んでいて、すごくここがいいところだなというように思っています。また、光文さんでは自分の身を守るという視点でそういう記事を取り上げているので、子どもたちから見たときに、主体的に取り組めるのが光文さんではないかなというように思いました。

○村松教育長

ほかいかがですか。今、光文書院と学研と2社続いての御意見が出ています。ほか、いかがでしょうか。

○若林委員

私も光文書院、どの保健もみな同じように出てると思ってますけど、光文書院の場合、最初、けがの手当てってどうしたらいいんでしょう、どんなけががあるでしょうということ、を繰り返し見やすい。各单元に対して同じように問いかけがあって、文章とイラストの、これ5、6年なんですけど、バランスもとても見やすく、その辺がよかったと思ってます。

○村松教育長

わかりました。ほかいかがですか。

○塚越委員

非常にどこも読みごたえがあり、違いが見出しづらくですね、選びがたいのですが、私は学研かな。もしかして、ほかの教科書もあるかもしれないのですが、東京書籍、このたばこの話で、たばこの肺の写真がどんと載っていると。たしかほかでもありました。何か、やっぱりリアルに危ないものは危ないということが、ぱっと伝わる教科書っていいなと

いうように拝見していて思いました。東京書籍と、あとどこかもたしか出ていましたっけ。学研ですね。

○村松教育長

ほか、いかがでしょうか。光文、学研、東書、3つ出ていますので、この3社からよろしいですか、絞って行って。何か御意見はほかに。よろしいですか。

では、今の順番で採決をいたします。光文、学研、東書ですね。

では、光文書院がいいと思われる方。

(挙 手 3 名)

学研がいいと思われる方。

(挙 手 1 名)

では、東書、ゼロということですね。では、保健は光文書院に決定をいたしました。

では、次に「外国語」です。見ていただいている間に、事務局のほうへ。外国語は初めての教科書ということで、展示会の、市民からの関心度も高いと思うのですが、私たちも資料としてはいただいていますけども、市民の声の主なものを少し教えていただけますか。

○内田学校教育課担当課長

今回初めて教科書が採択ということで、市民の方も比較的意見が多かったのが外国語です。その中で特に多かったのが、外国語の教科書が中学校1年生の英語の教科書と同じような内容と思えるようなものだったというようなことと、関連して、中学校の英語へ、どのようにつながっていくのかというところが見えてこないというような御意見があった。よかったところとしては、QRコードが各社ともついていて、実際にスマホに取り込んで見ることができる。それで、そのスマホで見た中で、動画であるとか、音声であるとかというものが体験されてとてもよかったというようなこととか。そういったことを家庭でも保護者が勉強するというような機会があるのかなというように思ったというような御意見がありました。

○村松教育長

わかりました。では、いかがでしょうか。

○村上委員

今回初めての英語の教科書ということで、すごく悩みながら全社見ました。すごく工夫されていて、驚いたことに、やはり思っていたよりもすごく分量も多いですし、難しいなという印象を受けました。小学校の英語がどのような形がいいのかなと考えたときに、やはり英語の入り口で、中学校にスムーズに移行していくことも大事なのですけれども、今、大事に

されている話とか聞くということがメインでされていることと、あと、分量がそれほど、内容がそんなに多くなく、苦手な意識を持たないで全員が取り組めるということがいいなというように思って、すごくいろいろ見させていただきました。

その中で私がいいなと思ったのは、あと、光村と教育出版がいいなというように感じました。光村は、すごく国際色豊かで、見ていてわくわくして、自分が英語…最初のページに、5ページとかに「さあ、行こう、英語の世界へ」、英語で世界へということで、これを勉強したら世界でいろんなことができるんだということがイメージしやすい。わくわく感を持って捉えられるなというように思いました。文章もそれほど多くなく、割と大きな文字で進められているのと、あと、26ページに、名刺を交換しながら自己紹介しようというページがあるのですけれども、いろんな国の子どもたちの写真が出ていて、QRコードがいろんなところにあるのですが、QRコードの中でその写真の子どもたちがじかに自己紹介してしゃべっている画像が見られるというのがすごく楽しくて、見入ってしまうような感じでした。

このQRコードの使い方がどういうふうに行われるのかということも大きな問題だなと思いながらほかの教科書を見たときに、教育出版のほうは子どもたちの外国をイメージしやすい、作りが同じで、先生がビデオを映像で流すような作りになっています。だから、子どもたちがそれぞれQRコードで自分たちで確認しなくても、先生がそのビデオによってその外国の子どもたちの話であったりとか、そういう映像が見られて、全員で共有したところで進められるというところが違いだなというように思ったので、私は教育出版がいいなというように思いました。

○村松教育長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

○塚越委員

先ほど事務局からシェアがあった市民の方のアンケートのとおり、私も全体を拝見して、ここまでのレベルを小学校でやるのだと、ちょっとびっくりしてしまったというか。私の記憶している中学校1年生の英語よりよっぽど難しそうだなというのは感じたところなのですが、事務局に2点お伺いしたいのですが、本題からちょっと逸れるかもしれませんが、当市において、今、来年度からその英語が小学校で始まるということに向けての、研修なのか勉強会なのか、準備の状況がどのような形でなされているのかというのが一つ。

それからもう一つは、2市1町の研究会の結果で言うと、7社の中で教育出版の数値が一番、60点で一番高いのですが、初めて扱うものですから、そこはやっぱり先生方が扱い

やすいものという、当初の考え方はすごく大事にすべきじゃないかなと思ってまして、逗子市に絞った場合にどのような結果になっているか、この2点を御教示いただけるとありがたいです。

○内田学校教育課担当課長

逗子市のほうではですね、今、外国語教育研究会を開催しております、もとの昭和女子大学小学校の小泉先生を講師にお招きして、そこで外国語活動…外国語教育についての研究というか、授業の進め方であったりとか、指導案の作成についたりというところの研究をしていて、そこに参加している各校の先生方が学校に持ち帰って、学校での外国語の指導に生かしていくというような状況です。

その中でやはり小泉先生が大事にしているのは、まず聞くことということですね。を大事にしているということで、まずいろんな外国語、特に英語ならば単語、言葉をシャワーのように浴びせかけるということが大事だというようなことを常々おっしゃっている先生です。学校のほうでもそれを大事にするということと、あともう一つは、教える内容が日本語でやっても楽しい、子どもたちの興味・関心を引く内容なのかどうかということをややはり大事にしていくということが大切だということと言われています。そういったところを、今、各学校のほうでも意識しながら、外国語の指導をしているということなのです。

それから2点目の、教育研究会の報告書で、逗子市のほうでいくと、一番評価が高かったのは教育出版社になります。

○村松教育長

ほか、いかがでしょうか。

○若林委員

私も教育出版さんに目がとまったのですけれども、初めから20ページぐらいまで、割とカラーの絵ばかり、受け身で教えてもらう英語というのではなくて、子どもが主体的に入り込めるような感じで、文章がほとんどないのですね。それを多分追って、生活の暮らしに密接して買い物をしたとき、ここでレジは何と言っているんだろうねとか、例えば何かそんなようにしていくのかわからないのですけど、イメージなのですけども。しばらくずっと、あまり文章が入ってこない。これはこうです、ああですとか入ってこないというところがいいかなというように思いました。だんだん後半になってくれば出るのですけれども。あと日本地図が出てきたりとか、そういったところにもつながっているのかなというところで楽しく、自分としても楽しく見えました。

○村松教育長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

○星山委員

私は、子どもが小さいころアメリカにいたので、何というのですか、本当に日本語と同時に英語を習得していく過程を見ていくと、やっぱりふだんのコミュニケーションの、聞いて、必然性のあるものから覚えていくのだからって思っていて、小学校の英語ってどういうものなのかというの、まだ皆さん手探りかと思うのですけれど、私はいろんなのを見て、すごく情報量が多いなと思って。まだ初めて入るので、入れたいものをみんな入れたかなという印象を全体的には持ち、私も教育出版がいいなと思ったのですが、それはすごく焦点化してあって、刺激が絞られているというところが逆に効果的じゃないかなって思ったので、余り大人の思い入れ過ぎちゃうと、もうお腹いっぱいになって、嫌になっちゃう子もいるかなという、高度ですごくよくできている教科書が多かったのですが、ちょっと、子ども心に戻って見たときに、私は教育出版がいいかなというように思いました。

○村松教育長

ほか、いかがでしょう。

では、教育出版と、今、光村と2社の社名が出ていますので、そこでの採決でよろしいですか。

では、採決をいたします。教育出版がいいと思われる方。

(挙 手 全 員)

では、外国語は教育出版となりました。

では、最後、「道徳」です。道徳は8社で一番多いので。真ん中のテーブルは空になりましたけど、委員さんの机の上はいっぱいになりました。道徳については他教科と違って採択が、直近の採択が2年前だということもありますので、その辺も踏まえて御意見をいただければと思います。とはいうものの、継続ではなくですね、教科書自体はそれぞれ2年間の間で工夫をされているとは思いますが。御意見を。

○塚越委員

私、2年前の道徳の採択のときにも教育委員をやらせていただいております、そのとき…そのときも8社ぐらい…8社ですね、ありまして、結構各委員間で議論をした記憶があります。そのときの委員で残っている、村上委員もそのときいらっしゃいました。この中で2人だけですけども。そのときに選ばせていただいたのが日文さんです。そのときの議論の

プロセスを今思い出しているのですけれども、道徳は何か正解…大人が正解を押しつけるというものではなくて、一つの題材をテーマに子ども同士で話し合っていて考えて、深めて、自分たちなりの答えにたどり着いていくと、そういうものであるべきじゃないかなみたいな話が一つのポイントで、あまり倫理観を押しつけるというか、こっちだというふうに指し示すというよりは、議論のきっかけになりやすい教科書がいいよねという話の中で日文を選んだと記憶しています。それは今も、ちょっとその当時のものと2年たった今と、多分多少改善、リファインされていると思うのですけれども、当時…今、改めて見ても、この各章の後に「考えてみよう」と、「見つめて生かそう」、一つのテーマの後にもう一回考えるきっかけをつくるという仕立てがすごくいいのでは…やはりいいなというように感じています。

また、そのとき議論になったのが、日文はこのノートが別冊になっているということが、学校でどう評価されるのかというのは、我々が採択したときに意見が分かれたことだったと記憶しています。そのあたりはやはり現場の先生方の御意見というところを大事にしたらいかなと思ひまして、逗子市の評価というのはどういう数字になっているのかということを経理局から御教示いただけるとありがたいです。

○村松教育長

では、事務局、お願いします。

○内田学校教育課担当課長

点数の順でいきますと、日文と光文書院が同数ですね。その次が東書という状況です。

○塚越委員

あと、ノートについて何か、それは研究会に出られた村上委員でも結構ですし、先生方から御意見ってあったりしますか。別冊に関して。

○内田学校教育課担当課長

採択検討委員会の中で、調査員の先生からのお話ということで、現在、道徳のノートの活用は積極的になされているとのことですね。毎回書き込みをさせているのですけれども、教科書会社の意図と、先生たちが子どもたちに身につけてほしいという目当てと多少ずれている部分もあるので、そのノートだけではなくて、ワークシートを使ったりというような形で、少しアレンジをしながらやっているのだけれども、積極的に活用しているというお話でした。

○塚越委員

ありがとうございます。

○村松教育長

ほか、いかがですか。

○村上委員

私も2年前に採択をしたメンバーなのですが、やはりノートがついていることがどうだろうということで、私たちはいろんなキャリアの先生がいる中で、若い先生方も同じように指導がしやすいのではないかとということで、この教科書を、日文の教科書を選んだ記憶があります。道徳ノートのことも、先ほどおっしゃっていただいたように、先生方も、もしノートがなくても書かせるという作業は授業の中でつくるし、それに向けてプリントもつくらなければいけないというお話もあったので、ある程度、これがあることで少し役に立っている面でもあるのかなというように思います。そして、前回選んだときよりもさらにノートのところは自由度が増しているなというように思っています。そして、もう少し意味のある、少し言葉が書いて、書かせる内容に縛りがあったような部分もフリースペースになっていたりとかしているの、活用できるのかなというように思っています。

やはり前回光村と日文で話し合いが行われたのですが、日文も文章の力というところでは光村がいいなというお話が出ていて、ただ、少し国語と同じように長過ぎるのではないかと、そういう意見があったのですが、今回見させていただいて、すごく文章が少し短くなっているような気持ちになりました。なので、すごく気持ちは揺れるのですが、ここ2年間この日文で、小学校で勉強をしてきて、先生方の夏の研修会でもここで教科書を生かすような勉強会が開かれているということもありますので、もう少しこれをじっくりやっていくのがいいのかなというように感じています。なので、日文がいいと思っています。

○村松教育長

ほか、いかがでしょうか。

○星山委員

私は光村がいいと思っています。低学年でほとんど出てくる「かぼちゃのつる」という教材なのですが、問いかけ方が全然違って、御存じと思うのですが、カボチャが道路につるを伸ばすとトラックが来て、それが引かれて切れちゃうというところなのですね。これの解釈、すごい賛否両論あるのですが、日文は、カボチャがポロポロ涙をこぼすのを見て、みんなはどう思っただろう、考えてみよう。人の注意を聞いて、我慢することができたときのことを思い出してみようというのが問いかけです。

私は光村がいいと思うのは、まず作者のことが必ず載っているということと、例えばですけど、問いかけのところで自分がしたいことをするときを考えなければいけないのはどう

ということかな。あなたはカボチャがつるを伸ばしたかったときの気持ちがわかりますかって聞いているのですね。私はいろいろな今、対人関係とか、道徳って答えはないんですけど、必ずどちら側からだけという気持ちでなくて、する側と受け取り側というのを、必ずそれぞれの気持ちがあると思うのですね。それに関して、私は光村が圧倒的に丁寧だと思うのです。それは、文章が、やっぱり書くというところと読み手のところの寄り添い方がすごく丁寧だからだと思うのですね。どこの会社のも、道徳って、子どもたちが考え…考えてもらうことが目的なのですが、発問の仕方ってものすごく大切だと私は思っていて、やっぱり深い問いかけ、人間として何が大事かということがわかっていて問いかけるのと、これが正しいと思うからこういうふうに、先生の答える的なことが、子どものほうが察して答えるのって、私はちょっと違うかなと思っているので、私は道徳は光村のほうがいいのではないかなって思いました。以上です。

○村松教育長

ほか、いかがでしょうか。

○若林委員

日本文教出版と、東京書籍もそうなのですが、各この単元の次第が書いてあって、その色合いもちょうどすごく見やすいのと、そうすると子どもたちが見通しを持ってここの授業が、きょうはどんなことを学ぶのかなというのがわかるのかなって、そんなことを思いました。それで、先ほどもおっしゃっていましたが、まとめがあって、またそのことについて深く考えられるページがあるということで、完結できているのかなと思って、見やすいなと思いました。

光村さんも本当読んでいて、命を大切にしているというところをすごく感じたので、とてもよかったと思うのですが、日本文教出版がいいと思いました。

○村松教育長

それでは、日本文教出版と光村の2社の名前が出ています。他社については…ちょっと研修の状況をもう一度確認ですけども、逗子の本年度までの研修について、どんな状況でしょうか。

○内田学校教育課担当課長

研修としては、今年度夏の教育研究相談センターがやった研修会で、講師に、道徳教育研究員会で講師をしてくださっている本田正道先生、前の横浜市立桂小学校の校長先生ですけども、を講師にお招きして、道徳のこれまで行ってきたその指導案の検討であるとか、授

業の進め方であったりとか、本田先生の模擬授業であったりとか、ワークショップを通して、子どもたちの考えをどう引き出していくかというようなことを行う研修をこの夏に行いました。

○村松教育長

本田先生は教科書の編集にかかわっているということだよね。現在の使用の教科書にかかわっていると。じゃあ、そういうことも踏まえてということで、では、日本文教出版と光村で採決をしたいと思います。

日本文教出版がいいと思われる方、挙手をお願いします。

(挙 手 2 名)

光村がいいと思われる方、挙手をお願いします。

(挙 手 2 名)

では、2対2ですので、私のほうで。私は2年間の研修と、それから教員のほうの蓄積ですかね、それから、さらにノートも前回自由度と時間がかかる、読んで、書いて、話し合っ、この時間が、一番大事な議論の時間が確保できるのかということですけど、今回、自由度が高くなって、改良されているというところをひとつ評価して、日文ということにしたいと思います。これがさらに細かくなっていたりするとなかなか難しいですし、光村の文章がやや短くなっているというのは、現場の声を反映しているんだとは思いますがけれども、今までの蓄積ということで、日文ということで決定をしたいと思います。

長い時間御議論いただきまして、ありがとうございます。最終確認をいたします。略称で、国語が光村。書写、光村。社会、教育出版。地図、帝国書院。算数、東京書籍。理科、大日本図書。生活、東京書籍。音楽、教育芸術社。図工、日本文教出版。家庭科、東京書籍。保健、光文書院。外国語、教育出版。道徳、日本文教出版と。以上でよろしいですか。では、以上で教科書採択の小学校の分については終了をいたします。

続いて、事務局にお尋ねします。平成2年中学校使用教科書について、中学校現場から何か指摘がありましたか。また、平成2年度特別支援学級に学ぶ児童・生徒の使用する教科用図書のうち、検定教科書以外に一般図書の使用の希望が小・中学校からありましたか。

○内田学校教育課担当課長

令和2年度中学校使用教科書について、継続使用の年になっておりますので、学校から特に指摘はございません。

また、市内の中学校・小学校の特別支援学級について、学校教育法附則9条にかかわる一

般図書の希望はございません。

○村松教育長

ありがとうございます。それでは、令和2年度市内中学校使用教科書及び中学校…特別支援学級では、これまでの教科書を継続使用することとしてよろしいですか。

(全員異議なし)

それでは、中学校の継続使用を決定をいたします。

以上をもちまして、議案第8号「令和2年度使用教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。長時間にわたり御審議をいただきまして、ありがとうございました。

教科書採択に絡んで、もし、学校現場等の附帯意見等がありましたら、このときに出していただければと思います。

○村上委員

教科書の内容がふえて、立派な写真が載るにつれて、教科書の重さがすごく世の中でも問題になっています。採択検討委員会のときにもその話が出ました。そうしましたら、逗子小学校の校長先生が委員として参加されていたのですが、うちは置き勉を基本としているということをおっしゃっていました。それが賛否両論あるとは思いますが、必要に応じて教科書を置いてもいいということにするということは、この教科書の量と大きさを見たときには必要なかなというように思います。当然、音読の宿題だとか、ドリルの宿題だとか、必要なので、算数・国語というのは持ち帰ることが大切かと思いますが、そのほかの資料的な役割を示している社会であるとか理科であるとか、その教科によって取り扱いを学校のほうで考えていただき、子どもたちの成長に負担のないようにしていただけたらなと思っています。

○村松教育長

教科書採択については、その重量は各社配慮はされているものの、採択の主な理由としては考えないという県の方針もありましたので、私たちもそういうようにしましたが、でも、現実的な重さのことは今のことがありますので、これは学校に伝えていただきたいというように思っています。

そのほか。よろしいですか。

○塚越委員

先ほど道德の教科書のときに星山先生から「かぼちゃのつる」のお話がありましたが、2年前のときも結構やはり押しつけている、考え方が一方的になることに対する危惧というの

が、我々の中からも出てきましたし、展示のアンケートからも、当時もすごくたくさんありました。今年のアンケートを拝見しても、やはり道德のあり方というのは皆さん気になる模様で、いくつかコメントが付されております。

先ほどの話、教科書は日文さんで継続というようになりましたが、やはりそれはいつも教科書そのものだけではなくて、授業のつくり方がまだ採択して…前回採択から2年、ここからまた4年道德をやっていく中で、深め合って、考え合っていく。考えるきっかけをつくるものとしての教科書。もちろん、教科書だけに縛られず、広く考えていく道德というのを市全域でつくっていくよう、研究絡めてやっていければなというように思っております。

○村松教育長

ありがとうございました。ほか、よろしいですか。

○村上委員

私も道德で、先ほどの自分の意見では日文がというように言いましたが、挙手のところでは光村のほうに手を挙げさせていただきました。やはり、ちょっと星山先生のおっしゃっている、1年生の解釈の仕方、「かぼちゃのつる」というものに対する考え方についての考察にちょっと、あ、やはり厳しいなというように思って光村にしましたけれども、やはり、このアンケートでも自分のわがままを通してしまったことに対する体罰としてあらわしているのではないかという、危惧した、いじめとかDVにつながるのではないかというような御意見もありました。やはり、教科書は教科書で、その取り上げ方や書いてある言葉は違いますけれども、先生方が個人的なこの意見で進めるのではなくて、先生方の中でも学校内、また逗子市内で勉強会を重ねて、どういうふうに子どもに伝えていくのかということを十分に考えた上で使っていただけたらなというように考えています。

○村松教育長

ありがとうございました。では、附帯意見については、採択の結果とあわせて各学校には伝えていきたいというように思っています。

では、以上で「教科書採択」に関連しては終了をいたします。

◎日程第5「その他」

○村松教育長

日程第5「その他」を議題といたします。

その他、議事としてありますか。

○秋山学校教育課長

それでは、7月18日に開催された7月定例教育委員会以降の市内小・中学校の様子を、校長・教頭からの報告をもとにお伝えいたします。

逗子小学校及び中学校の管理運営に関する規則に規定されてございますとおり、市内小・中学校は7月21日より夏季休業に入っています。夏季休業前までは日々の日照時間が少なく、プールの授業の実施等に悩まされましたが、夏季休業に入ってから猛暑が続き、そんな中、小学校ではサマースクールや補習、学習支援、中学校では部活動の大会や体育祭の準備等が行われています。小学校では、ふだんの授業では扱えない内容を学習体験できる、いわゆるサマースクールが7月の後半に各学校で開催されました。工作教室や磯の生物観察の講座など、得意分野や専門を生かして、校長みずからが講師となったものを初め、地域の方々や保護者を講師とした講座など、盛りだくさん開催されました。企業の協力による出前講座も多く用意され、バラエティーに富んだ講座に、参加した子どもたちは大喜びだったそうです。補習や学習支援は、わからなかった単元や夏休みの宿題を持ってきて学習しています。学校によって形態や日数等が異なるものの、それぞれの学校で実施し、夏休み後半に実施を予定している学校、学年もあるようです。

続いて、中学校です。中学校の部活動については、連日の猛暑の中、3年生にとっては中学校生活最後の夏の大会が行われました。選手や部員たちは日ごろの練習の成果を発揮しようと、全力で大会に臨みました。多くの運動部では試合に負けたところで3年生が引退し、2年生を中心とした新しいチームづくり、運営組織づくりが始まりました。2年生の新しいリーダーを中心に、自分たちで進めること、1年生をリードしていくことの難しさを、まさに今、学んでいるところです。9月21日（土曜日）に開催を予定している体育祭の準備も各学校で進められています。3年生を中心にブロック集団演技の練習や、ブロック旗、ビッグアート、衣装等の製作に取り組んでいます。8月上旬には、1、2年生も加わり、集団演技の練習も始まっています。

中学校でも小学校と同じような補習や、教科個別相談会、学習会、サマースクールのよう、ふだんの授業では扱えない内容の特別講座も行われています。

教職員は教育研究相談センター主催の夏季研修会に積極的に参加し、知見・見聞を深め、広げています。今年度は明星大学教育学部教授であられる星山麻木教育委員を講師に、支援教育研修「困っている子の支援のあり方について」を、市内の教職員全員を対象に行っています。子どもへの温かなまなざしや合理的配慮など、よりよい支援者になるため

の具体的な視点や手だてを学びました。夏季休業明けの教育活動に生かしてほしいと思っています。

6月定例教育委員会で御報告いたしました。8月10日（土曜）から14日（水曜）までは、教職員の健康増進と適正な休暇取得の促進を図り、児童・生徒の適切な休業期間の確保と家庭教育期間の確保・推進を目的に、学校閉庁日とさせていただきます。お盆明けから夏季休業中の後半の活動が始まります。本日が立秋となりますが、まだまだ暑い日が続くそうなので、部活動や補習等を行う児童・生徒の健康面、体調面が心配です。天候や気温を見ながら、外での練習や活動を、エアコンのきいた室内の活動に変えたり、ビデオを見たり等、練習や活動を補う工夫をすると聞いています。中学校は8月28日（水曜）から、小学校は9月2日（月曜）から夏季休業明けの授業を再開いたします。夏休み明け、子どもたちが元気な顔で登校してくれることを祈りたいと思います。

以上、市内小・中学校の様子を御報告させていただきました。以上です。

○村松教育長

本件について御質疑、御意見はありませんか。いいですか。

では、その他議事として何かありますか。

○村松教育部次長

以上でございます。

○村松教育長

それでは、委員の皆様からその他議事として何かありますか。

○若林委員

関連するのですが、教育研究相談センターの夏季研修の中で、7月31日に行われた幼保小の研修がありました。私は参加していないのですが、大変よかったというのを聞きまして、ほかの参加された皆様から、御意見とか感想とかあったら聞きたかったなど、ちょっと思ったことが一つあります。

あともう一つは、小学校の先生方の夏季休業中の幼稚園・保育園への体験保育に参加するということをお願いしているみたいで、実際8月26日に久木小学校の先生が2名、ほかの委員なんですけども、問い合わせがあって、実現したということを知りまして、ほかの、沼間地区だったり、逗子地区だったり、ほかの先生たちもぜひ来ていただけると、子どもたちの発達段階が、小学校に入る前の子どもたち、段階がわかって、そこがまたアプローチだったり、できるんじゃないかと思っておりますので、ぜひ、実現できたらいいなと思っております。よ

ろしくお願いします。

○村松教育長

ありがとうございました。ほかに。いいですか。

○村上委員

私も、教育研究所の夏季研修会に2回参加させていただきました。1回目は7月24日の水曜日の星山先生の「困っている子への支援のあり方について」に参加させていただきました。先生方がものすごい数…人数で参加されていて、その一番後ろのほうに座って、私も先生方と一緒にワークショップを受けさせていただきました。子どもたちのことについて学ぶのには、大人たちが自分を知ることが一番大切ということで、自分のことを紹介するアプローチだったりとか、そのグループワークであったりとか、そのグループワークで協力して何かやるときのことを実際に自分たちでやってみるということで、先生方もずっと座って聞くのではなく、立ってワークショップをしながら、本当に笑顔が…笑顔と笑い声がっぱいの、すごくすてきな研修会でした。先生方同士の交流の場にもなったのではないかなというように感じました。

もう一つは8月6日の火曜日にプログラミング教育の実践に向けてということで、勉強に行きました。プログラミングということを小学校でやるということで、どうしてもイメージが湧かなかったので、実際どういうことをするのかということをお話を聞きに行きました。校長先生を初めとして、先生方が参加されていました。講師の先生も元逗子中学校の先生で、場も和やかに、地元に戻っている雰囲気の中で進められていました。実際にプログラミングってすごく、ちょっと危なっかしいイメージだったりとか、難しいというイメージでしたのですけれども、私たち、ここでもワークショップが取り入れられていて、三角形を書くのに必要な手順をワードでカードになっていて、それを並べかえるということが、それで三角形を本当に書けるだろうかということ、何回繰り返すとか、これはイエスかノーかというような、言葉でもプログラミングができるんだなということと、その手順をあらわすことで、ふだん頭の中がこんがらがってしまっているような、本当に困っている子でも、プログラミングを生活の中に取り入れることで、頭の中がすっきり、過ごしやすくなる方法もあるのではないかなという、新しい視点を持つことができました。毎年すごく熱心に先生方が通われていて、とてもすばらしいというように感じました。ありがとうございました。

○村松教育長

ありがとうございました。他はよろしいですか。

では、ないようですので、以上でその他について終わります。

次回の定例会ですが、9月17日（火曜日）午後2時30分からを予定しておりますが、決定については改めて委員に御通知いたします。

以上で本日の日程は全て終了しました。これをもちまして、教育委員会8月定例会を終了いたします。長時間ありがとうございました。